

平成 27 年 9 月 27 日
国際ロータリー第 2730 地区
クラブ管理部門
クラブ研修委員会 委員長 古江 矢

地区クラブ研修委員会開催報告書
記

1. 日 時 : 平成 27 年 9 月 13 日 (日) 11:00~12:30
2. 場 所 : メインホテル 1F 会議室
3. 出席者 クラブ管理部門 部門長 松田 泉
 クラブ研修委員会 委員長 古江 矢
 クラブ研修委員会 副委員長 柏田直俊
 クラブ研修委員会 委 員 深尾兼好
 クラブ研修委員会 委 員 安藤 宏
 アドバイザー 鹿児島西 RC 川平健次郎

4. 議 題

1、「DLP と CLP の研修セミナー」のプログラムについて審議

総合司会 柏田副委員長とし 次のプログラムで実施することを承認

- (1) 委員長挨拶・講師紹介・プログラム説明 など
- (2) 講 演 「DLP の内容について」 山下 PG
- (3) 質疑応答
- (4) 講 演 「CLP の取組について」 秦 PG
- (5) 質疑応答
- (6) 休 憩 会場設営
- (7) グループディスカッション
- (8) グループ発表
- (9) まとめ 委員長

2、地区大会におけるブース出展内容について

クラブ研修委員会で出展することを決議

出展作品については、柏田副委員長と深尾委員に検討を願い、
資料作成などは両氏に一任することを決議

以上

平成 27 年 9 月 27 日
地区クラブ研修委員会 委員長 古 江 矢

「DLP と CLP の研修セミナー」の実施報告

見出しの事業の実施結果を次のように報告いたします

1. 日 時 : 平成 27 年 9 月 13 日 (日) 午後 13 時より
2. 場 所 : メインホテル 5F 都城市上町 8-9
3. プログラム :
 - (1) 「地区活性化プランの内容について」講演と質疑応答 山下皓三 PG
 - (2) 「クラブ活性化プランの取組について」講演と質疑応答 秦喜八郎 PG
 - (3) グループディスカッション
4. 参加者

出席クラブ	49	75%	84 名
欠席クラブ	16	25%	
出席役員数			12 名
			計 96 名

5. まとめ セミナー総括は次のとおり

一、CLP 採用の目的

「クラブの活性化」を図ることを目的に、採用された制度である

- (1) クラブに活気をもたらすための**長期計画**を立てる
- (2) ロータリークラブ・セントラルで、クラブの長期目標を支える**年次目標**を立てる
- (3) 会員の積極的な参加を促し、情報を伝えるためのクラブ協議会を開く
- (4) クラブ会長、理事会、委員会委員長、会員、地区ガバナー、ガバナー補佐、地区委員会が、互いに、また、事務局と効果的にコミュニケーションをとる
- (5) 5 月末までに data@rotary.org に次年度のクラブ役員を報告する
- (6) 後継者の準備及び未来のリーダーの育成を通じて、クラブの長期的な安定を図る
- (7) 現在のクラブの慣習を反映させて細則を修正する
- (8) 会員のための親睦行事を開き、友情を育む
- (9) 全会員がクラブのプロジェクトや役割に積極的に参加する
- (10) 定期的に一貫した研修を会員に提供する
- (11) クラブのニーズに基づく委員会を設置する 等々

二、クラブの組織 (委員会)

上記目的を達成するために、各クラブは、独自の委員会の構成が必要です。

しかし各クラブは、その委員会構成の捉え方が理解できず戸惑いがあるように感じます。

そこで、地区の組織と連携できる構成表を、推奨ロータリークラブ細則の常設委員会の構成をもとに 試作してみました (あくまでも参考)

これを元にクラブの状況によって独自の構成表を考案して見られたらいかがでしょうか。

三、クラブ細則の修正見直し

委員会活動・構成はクラブ細則に則ったものでなければなりません。

新しく委員会構成などを採用・変更される時にはクラブ細則を必ず修正する必要があります。

少なくとも、次年度から新しい細則を適用されるならば、12月の年度総会までに整理され、総会の承認のもとに新しい委員会構成に基づいた人事が必要になります

四、CLP と DLP の整合性について

各クラブは、RI (国際ロータリー) を組織する単一団体であります。地区 (ガバナー) は RI 会

長の活動指針についてクラブに伝達・説明・指導する役に留まり、クラブは、RIの決定事項に反しない限り自主・独立の自治権を持つとされております

CLPはクラブで必ず採用しなくてはならないということではありませんが、推奨ロータリークラブ細則に新しい常設委員会を設けるように推奨されておれば、各クラブはそれを尊重すべきではないかと思えます。それをCLPと理解すればわかりやすい。

DLPの役目として、「CLPをクラブが施工する際の助けとなる明確な計画を立てなければならない」とありますが、果たして十分な機能を果たしているのでしょうか。クラブとの整合性をみつけられないまま今日に至っている感じがします。

DLPとCLPの整合性を模索し、ロータリー活動の真の姿を理解していきたいと思えます。

平成 27 年 10 月 20 日

国際ロータリー第 2730 地区
クラブ管理部門
クラブ研修委員会 委員長 古江 矢

地区クラブ研修委員会開催報告書

記

1. 日 時 : 平成 27 年 10 月 17 日 (土) 10:00~11:30
2. 場 所 : 延岡市総合文化会館 地区大会会場
3. 出席者 クラブ管理部門 部門長 松田 泉
 クラブ研修委員会 委員長 古江 矢
 クラブ研修委員会 副委員長 柏田直俊
 クラブ研修委員会 委 員 深尾兼好
 クラブ研修委員会 委 員 安藤 宏

4. 議 題

- 1、地区大会におけるブース出展パネルの設置設営作業
- 2、28 年 2 月 21 日 開催予定の
 クラブリーダー研修会について打ち合わせ審議

内容

- (1) 日時を平成 28 年 2 月 21 日 (日) 午後 1 時からとする件
- (2) 会場を都城市メインホテルとする件
- (3) タイトルを「クラブの活性化」と「元気なクラブの作り方
 について」とする件
- (4) 講師として三木 PG を要請する件

などについて審議した

以上